



芝小だより

第九月号

発行所 港区立芝小学校
 〒105-0014
 港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



「おかえりなさい！」

―二学期を始めるにあたり―

校長 齋藤幸之介

本日の始業式で、私は子供たちに二つの挨拶をしました。

「おかえりなさい。」

そして

「おかえりなさい。」

四十二日間の夏休みを終えて一堂に会せることを、教職員一同有難く思っているところであります。

夏休みに入る前には猛暑日もあり、今年の夏の厳しさを憂いでおりましたが、八月に入ると二十一日連続の降雨となりました。農作物等への影響も大いに心配をされています。同じ夏にも年によって様々な特徴がある、と改めて気付かされた夏でもありました。

夏休みならではの体験

体験の大切さを説明する際に、「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、やったことは理解する」という表現が用いられることがあります。子供たちは、平素なかなか体験できないことができたのではないかと思っています。一人一人の表情は、以前にもまして嬉しくなったように見えるのは、きっと価値ある体験が積み重ねられたからだと思います。芝新堀田分会並びに本芝田分会の皆様様から

ラジオ体操もございました。子供たちが健康で過ごせるための一日のスタートを御提供いただきましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

学校では、七月二〇日にPTA主催による被災体験及び六年生のお泊り会を皮切りに、水泳指導、サマースクール、シンフォニック・フランスの平和祭りへの参加及び朝練習、ポスター教室など、平素の学校生活の中ではなかなか実現できなかったり、自分の思いや願いを一層強く叶えたりできる場が設定されました。例えば、サマースクールにやって来た子供たちが各教室で自分が取り組みたい課題に鉛筆を走らせている姿から、学びに対する意欲の高さを感じました。子供たちのよさをさらに多く発見できました。

ここ数日の教室では夏休みの話題が中心となりました。これをよい振り返りの機会とし、一人一人の成長への気付きと今後の課題の設定に生かしていきます。また、私共も、これからの学校生活へ生かすことを、来年度の夏休みの取組を考えていきたいと思っています。

教職員が取組―子供たちを迎えるため―

玄関をお入りになるとお気付きになるかと思いますが、各階の廊下はとても輝いています。本校用務主任が計画を立て、今までの活れを取り除いてからワックスを塗り、十分に乾かしてからポリッシュヤーで磨きました。子供たちに気付いてほしい美しさです。

一学期終了時に、働き方改革についての文書を配布いたしました。とは言うものの、学校教育の特性から考えれば改善が図りづらいところも多岐にわたります。そんな中、夏休みの有効活用は改革

の一助になります。例えば、二学期に行われる学芸会の台本をすでに仕上げている学年もあります。また、遠足の実施計画を決定したり、実地踏査を行ったりした教職員も多くおりました。教科等の学習計画を基に、授業案の作成にも取り組んでおりました。

また、菊原寛之副校長が中心となり、外部の講師をお招きして「特別な教科 道徳」の研修会を行いました。今までの道徳教育を踏まえながら「考え、議論する道徳」を目指すための研修は、新しい教育を実現するための大きな一歩となりました。成果については三学期の道徳授業地区公開講座に生かしてまいります。どうぞご期待ください。

さらに、自身の資質を磨くために、進んで外部の研修会に参加した教職員も多くおりました。子供たちの成長のために自ら課題を解決する努力は素晴らしいです。

このように、本校の教職員は来たるべき新学期に向けて計画的に準備を行いました。一学期に勝るとも劣らない取組に、私は新たな期待を抱くことができました。

二学期は、子供たちが最も長い時間を過ごします学期です。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」のように、様々な体験を通して大きな成長があったと振り返ることが出来る時間となるようにしていきます。そして、そのために、入学式と一学期の始業式にも伝えたように子供たちが「元気に登校する」ように力を尽くしてまいります。

今学期も引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。